

日本スキー博物館特別展

スキー人形コレクション

- スキーを楽しむ人形と動物たち -

日本で最も古いスキー人形の越路人形をはじめ松本白樺風俗人形、東北のモンペイ人形などと、ヨーロッパ各地の様々なスキー人形 300 点を展示します。



日本で最も古いスキー人形（越路人形）



木彫り熊のスキー



象牙製うさぎのスキー

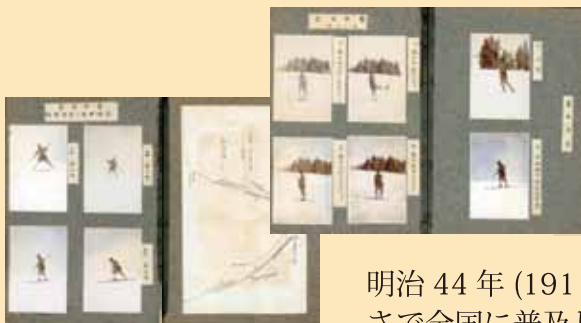


スキーを楽しむ人形たち

平成30年7月14日(土)～11月4日(日)

特別公開

「明治天皇献上のスキー写真帖」・「乃木希典書簡」



明治44年(1911)に新潟県高田で始まった日本のスキーは、驚異的な速さで全国に普及しました。その普及活動を語る資料を特別公開します。



日本スキー博物館

JAPAN SKI MUSEUM

〒389-2502 長野県下高井郡野沢温泉村 8270 TEL 0269-85-3418

■ 入館料 大人 300 円・小中学生 150 円
■ 開館時間 9:00am ~ 4:00pm ■ 休館日 木曜日



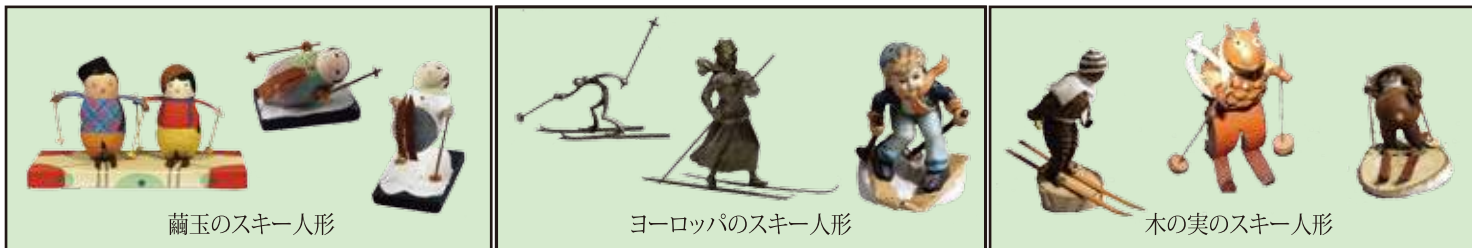
スキー人形コレクション -スキーを楽しむ人形と動物たち- 2018年7月14日(土)~11月4日(日)

人形には、木、土、布、ゴム、金属、セルロイド、などで加工され愛玩品、鑑賞用、美術工芸品などがあります。特に大正期には、山本縣(かなえ)が提唱した農民美術の木彫り人形が農閑期に盛んに作られるようになりました。一方、明治44年に日本にもたらされたスキーも大正期から昭和初期に全国的に普及する中で、多種多様なスキー人形が作られるようになったと考えられます。また昭和40年代のスキーブームには、スキー場の土産品として、多くのスキー人形が製作されました。



「農民美術」

洋画家として知られる山本鼎(1882~1946年)がロシア滞在中に出会った農民の素朴な味わい豊かな美術品に心打たれ、長野県旧神川村(現上田市)で、大正8年に農民らを相手に講習会を開いたのが始まりとされています。12年には日本農民美術研究所が建設され、ここを拠点に農閑期を利用して絵画や木彫、木工、版画、染色などの美術工芸品を製作、販売して農家の副収入に充てようという農民美術運動は全国に普及しました。



繭玉のスキー人形

ヨーロッパのスキー人形

木の果のスキー人形

特別公開

「明治天皇が御覧になった
スキー写真帳」



明治四十四年四月、高田第十三師団長岡師団長からスキーの説明のために明治天皇へ献上。天皇が御覧になられたものとして、長い間長岡家に秘蔵されていました。

「乃木希典書簡」



拝啓
過日ハ推参萬端
御懇待之程感謝、
十二日朝帰京後夫
火災後之處理ニ
今十五日朝より授業
相始メ候間乍憚御
昨夜より風雨恰モ
十一日午後ノ風雪之如ク
満地泥濘之ニ適
「スキー」モガナト連想
仕候、別冊進呈仕候、
御閑余御一覽被下度
彼ノ中朝事實ノ巻節
付箋仕置候、御子息
御怪我其後如何也
御内室様へ七言敷
御禮申上度御傳致
相願候、先ハ乍略御禮
御報旁如此候勿々
二月十五日 希典
長岡賢兄 幕下

乃木大將は明治四十五年二月十一日の越信スキー倶楽部発会式に臨席するため高田を訪れていました。この日に学習院女子部が焼失。大將はこの時学習院長であったため、予定を変更して急ぎ帰京しました。大將は帰京されるや焼失した学習院女子部の後片付けに奔走された後、長岡師団長宛にこの礼状を発送されました。この手紙の中で「満地泥濘、これに適するスキーもがたと存じ候」と言いスキーが雪国において有益なことを痛感したと述べています。また、「御子息御怪我その後如何」とあるは、長岡師団長の二男護郎氏(当時十五歳)が滑降競技予選に出場、右腕を骨折(我国最初のスキー負傷者)したのを見舞われたものです。